

## 乳児部会（概要版）

### 【提言項目】

#### ケアの個別化の推進に向けた職員体制の充実等について

### 【乳児部会とは】

東京都社会福祉協議会に所属する都内の10箇所の乳児院をもって組織されている。本部会は、乳児福祉の増進と職員の資質向上を期するため、乳児院相互の連絡調整を図り、各種調査・研究活動、研修会の開催等の事業を行っている。なお、入所定員は全体で537名の枠があり、17年度の年間充足率は86.5%である。

## 乳児部会（詳細版）

### 【提言項目】

#### ケアの個別化の推進に向けた職員体制の充実等について

### 【現状と課題】

「少子高齢化社会」の中で、被虐待児童の増加等に適切に対応するために、社会的養護体制の充実がますます求められている。乳児院においては、入所児童の健全育成のためにケアの個別化を推進する必要があると、このための人材確保と養成が重要となっている。

しかし現状は、入所児童や家庭の状況の大きな変化が考慮されないまま、長い間直接処遇職員の配置基準が是正されずに推移している。加えて、平成18年12月からは、定員を超える入所を余儀なくされ、次年度からは暫定定員のルールに関わりなく定員枠の拡大を求められるような逼迫した事態が続いている。東京都では、この間生後数ヶ月の乳児の入所が困難な状況が続いており、乳児の生命の安全が保障されていない。

このような中で、乳児院職員は年次有給休暇もほとんど取得できない状況で、日夜入所児童の「安全と安心」を確保するために奮闘している。

こうした乳児院を取り巻く環境は、職員の定着を阻害し、また、新たな人材確保も困難になってきている。特に看護師職については、深刻な事態があちこちで発生している。現状の労働条件の改善なしでは、人材確保はますます困難を極めることが必至である。

以上のことから、乳児院における職員の配置基準の見直しは、喫緊の課題である。

また、適切な給与・賃金水準を確保するための財源とするために、各種加算の充実も重要な課題である。

**【提言内容】**

- 1) 直接処遇職員の配置基準を、乳児1.7：1を1：1となるよう改善すること。
- 2) 「新生児等受入加算」の単価も大幅に引き上げること。
- 3) 「BCG等予防接種」及び「RSウイルスに対するモノクローナル抗体」にかかる費用の加算を新設すること。